

会議の名称	第10回 東村山駅周辺まちづくり協議会				
開催日時	平成21年10月29日(木)18:00~19:00				
開催場所	本庁舎6階 601会議室				
出席者 及び欠席者	出席者： (委員) 野口町1丁目自治会・野口町2丁目自治会・ 仲好会自治会・美友自治会・ 本町1丁目自治会・本町2丁目自治会・ 東村山市商工会・市農業委員会・ 東村山駅周辺まちづくり研究会・東村山青年会議所 15人 (進行役) アーバンデザイン東村山会議 中谷・棚田・浅野・益田・三上・ 中村・増田・小町 (事務局) 渡部市長・須崎まちづくり担当部長 まちづくり推進課：山下課長・谷主査・川崎 産業振興課：竹部係長 下水道課：富田主任 (コンサル) トーニコンサルタント 岡田・望月				
傍聴の可否	傍聴可	傍聴不可の 場合はその 理由		傍聴者数	2人
会議次第	1. 開会 2. 議事 1)最終のまとめ発表 2)市長あいさつ 3. 閉会				
問合せ先	都市環境部まちづくり推進課 担当者名 谷・川崎 電話：042(393)5111 FAX:042(397)9438				
会 議 経 過					
■配布資料： ① 第9回東村山駅周辺まちづくり協議会議事録(案) ② 東村山駅周辺まちづくり基本構想策定の流れ ③ 東村山駅周辺まちづくり基本構想(案) —最終のまとめ—					

1. 開会

1) まちづくり担当部長から開会の挨拶

2) 事務局、進行役、コンサルタントの紹介

3) 第9回東村山駅周辺まちづくり協議会議事録（案）の確認

（事務局）

・ 前回議事録の内容説明

（座長）

・ 前回議事録について質疑はございますか？

・ 質疑がございませんので、ご承認いただける方は拍手をお願いいたします。

→ 委員拍手

・ 委員の拍手によって承認を得ましたので「第9回東村山駅周辺まちづくり協議会（案）」の（案）は削除願います。

・ 今回で協議会が一旦終了するため、今回の議事録の確認は、協議会を代表して座長が行うことで、よろしいですか？

→ 委員の了承を得た。

・ 前回、最終のまとめについて内容確認をしました。その場で頂いた意見を踏まえて修正・追記したものが、今回お手元にある最終版です。

将来像等、再度内容確認をお願いします。

→ 委員の確認後、了承を得た。

・ 本日の協議会に傍聴希望者はいますか？

（事務局）

・ 本日は傍聴希望者が2名お見えになっております。

（座長）

・ 事務局からの報告で、本日の傍聴希望者は2名お見えになっております。これを許可したいと思います。では、傍聴者の着席まで休憩します。

（休憩）

2. 議事

1) 最終のまとめ発表

（座長）

・ まちづくり協議会は、まちづくり基本構想の原案をまとめることを目標に、今年3月から検討を重ねてきました。協議会の構成員は、東村山駅西側の自治会6団体、東側自治会4団体、商工会5団体、福祉、農業、地元研究会等4団体、とコーディネーターを含めて、議論・検討してきました。

・ また、協議会での検討のほか、市民ワークショップ、市民アンケート、中間のまと

め説明会、意見募集、都市計画審議会等で、頂いた多くの意見を踏まえて検討を重ねてきました。これまでの検討成果を市長へ報告します。

●まちづくりの課題

(本町2丁目自治会)

- ・市内には、多くの駅があり、各駅ごとに商店街が形成されているため、街並みに一体感が無いという意見が多かった。その商店街で、空き店舗がでると、人がいなくて、寂しい雰囲気がする。すると、人が来なくなり、また空き店舗が出てくる。このようなまちの課題を含めて「道路・交通」、「活性化・土地利用」、「住環境・防災」、「観光」の4つの課題を挙げた。
- ・「道路・交通」の問題では、しっかりした道路があれば、人が集まり、店舗、工場、事務所ができてくると考える。また、5か所の踏切も問題である。事故が発生したり、慢性的な渋滞の原因にもなっている。東京都で計画している都市計画道路3・3・8号線と連続立体交差事業をあわせて推進してもらえれば、車の流れがよりスムーズになる。
- ・課題①「安全・安心で快適な移動空間の確保」で主に挙げられる点は、歩道が途中で途切れてしまっている箇所があるということである。
- ・課題②「幹線道路の渋滞解消と生活道路の円滑な交通処理」では、5か所の踏切の除却と都市計画道路の早期実現をお願いする。
- ・課題③「市街地の分断解消と一体化を図る基盤整備」で主に挙げられる点は、東村山駅の東西の通り抜けが悪く、高齢者にとって不便であるということである。
- ・課題④「公共交通の充実」では、東村山駅を中心に四方八方に巡回バスを出せば、バスを利用する買い物客が増え、市の活性化につながるという議論がされた。
- ・「活性化・土地利用」では、特に課題②の「元気で賑わいがある商店街の形成」が重要である。若者が集まれるまちにして、商店街を活性化させていかなければならない。
- ・「住環境・防災」では、電線類を地中化して、狭い歩道でも、高齢者も子どもも安心して歩けるようにするのが望ましい。また、世間話など、人が交流できる広場も必要で、駅東口と西口をつないでイベントができるようにしたい。
- ・「観光」では、課題①「観光資源へのアクセスとPRの強化」課題②「東村山の顔となるシンボルの創出」をあわせて、駅前で、市民が一体となって集まれるイベントをすることで、多方面から集客することができるという議論がされた。

●まちづくりの方向性と将来像

(美友自治会)

- ・まちづくりの方向性を、3つのゾーンに分けた。
- ・東村山駅北西部は、主に自然環境と歴史文化資源が多く、観光資源が豊富である。東村山駅周辺のにぎわいから広がりを持たせた観光と癒しのあるまちの形成を目指

して欲しい。

- ・東村山駅周辺は、誰もが集まれる交流の場として、にぎわいの創出を図って欲しい。そのために、商業施設や商店街の活性化を図ることが必要になる。
- ・東村山駅南部は、産業創出につながるよう企業誘致を図り、働き暮らせる職住近接の未来につながる新たな都市の形成を目指して欲しい。
- ・以上を踏まえ、東村山駅周辺の将来像は、【「出会い」「ふれあい」があり、ぶらぶらと歩いて楽しいまち】とした。その実現のためには、次の3つの観点から、まちづくりを進めて欲しい。

①水や緑が豊かでうるおいのあるまち

②日常生活に密着した商店街に元気のあるまち

③誰もが安心して住み続けられるまち

- ・このほか、教育施設、特に大学の設置は、若者を集める契機になりうるとも考える。

●まちづくり構想図①道路交通ネットワーク

(東村山駅周辺まちづくり研究会)

- ・将来像のぶらぶら歩いて楽しいまちをつくっていくには、まず、道路整備が必要となる。
- ・東村山の通過交通のメインの道路である、新青梅街道と府中街道のバイパス道路である3・3・8号線には、安全確保のためにも、車をどんどん流すべきである。ただ、通過する際には、東村山を印象付ける工夫、例えば、植栽等をする必要だと思う。
- ・都市計画道路は、ただ道路を築造すればいいのではなく、骨格となる道路の3・4・27号線や3・4・9号線のように、それぞれの役割に合った道路を築造しなければならない。
- ・前川(化成小学校～都道128号線)に、東村山駅周辺まちづくり研究会で桜並木を植えてきた経過がある。このように緑のネットワークを作っていきたい。
- ・鉄道連続立体交差化は、多年を要する事業であるため、東村山の長期的なまちづくりを考える上では、欠かせないものである。
- ・鉄道連続立体交差化が進み、線路が高架化した場合、高架下に空間ができることになる。土地そのものは、鉄道会社の所有地である。東西のアクセスをよくするためにも、地元が高架下を開放・還元してもらえるような構想をたて、鉄道会社に伝えていくことが、今後重要になってくる。

●まちづくり構想図②土地利用

(副座長)

- ・東西4本、南北2本の道路を骨格にして、その沿道の土地利用から考え、次に道路に囲まれた土地利用を考えたい。
- ・東村山駅周辺は、商業・業務施設を集約し、にぎわい・活力の創出を図るエリアに

したい。

- ・東村山駅西側から3・4・31号線までと駅東側の3・4・27号線と鷹の道の間は、日常生活に密着した商業施設と周辺住宅地との調和を図るエリアにしたい。
- ・市北西部や本町地区プロジェクト周辺は、今ある風景、緑を大切にしたい。特に北西部の田園風景は貴重である。
- ・市役所や税務署周辺は、行政施設や文化施設が多くあり、それを活かしながら、より集約を図るエリアにしたい。
- ・東村山駅南側の西武国分寺線周辺は、既存の企業施設を活かしながら、新たに企業育成を図るエリアにしたい。
- ・3・4・29号線から3・4・31号線までは、日常生活に密着した商業施設等と北西部の「歴史・環境・文化」資源とを結び調和を図るエリアにしたい。
- ・東村山市の農地は、年間約2ヘクタールずつ減少し、現在、200ヘクタールを下回った。資源を守ることは、個人では難しくなっている。そのため、緑の基金等で対応して、資源の維持・確保に努めたい。

●まとめ

(座長)

- ・東村山を東西に分断する鉄道、そして、踏切大渋滞を解消するため、鉄道連続立体交差化を、実現してもらいたいという声は圧倒的に多くありました。
- ・ただ、鉄道連続立体交差化のほか、きちんとした幹線道路の整備が必要です。協議会以外の市民ワークショップ、説明会からも同様の意見が寄せられています。車道と歩道・自転車用道路をきちんと区分けして整備しなければなりません。今後は、電動車椅子等も増加してくるため、それらも通れるような道路を整備することが、より求められてきます。
- ・そのためには、まちづくり構想図のエリアをもとに、まちづくりの課題に対応する方針を示して、しっかりとした整備を進めてもらいたい。
- ・10回に渡る協議会の中で挫折しそうになったときもあったが、まちづくり基本構想(案)最終のまとめを作成することができました。市長へ、この基本構想の実現に向けた具体的なスケジュールや、実現までの大よその目標年数を示してもらいたいをお願いをして、この最終のまとめを提出します。
→座長から市長へ、東村山駅周辺まちづくり基本構想最終のまとめが提出された。

2)市長あいさつ

- ・3月から始まった「東村山駅周辺まちづくり協議会」経過については、座長のお話のとおりで、10回に渡って会議を重ね、練馬に視察にも行って頂いた。市民ワークショップ、市民アンケート、子どもアンケートも行い、駅周辺住民、駅利用者の方の声を吸い上げてもらって、最終のまとめを作成していただいたことに、感謝申

し上げる。

- ・座長の挫折しかかったという話を聞き、紆余曲折を乗り越えて、様々な方の様々な想いが、この最終のまとめに込められていることが理解できた。
- ・駅周辺を3つのエリアに分け、コンセプトを示してもらえたのは、非常に良かったと思う。【「出会い」「ふれあい」があり、ぶらぶら歩いて楽しいまち】という将来像は、行政だけの検討では使わない言葉である。この言葉は市民の皆さんならではの提案であり、大変素晴らしい将来像だと感じた。
- ・多くの方の声を集めて最終のまとめができ、市としても、これを踏まえ、意見募集を行い、都市計画審議会の諮問・答申を経て、基本構想として決定する予定である。
- ・引続き、鉄道連続立体交差事業及び都市計画道路の整備促進について、東京都に要請していく。
- ・真夏の暑い中、クーラーがない会議室で、窓を開けて、虫が入ってきても議論している協議会委員の姿を見たことは鮮明に覚えている。その構想案がまとまったと思うと感無量である。これからは、これをもとに一つずつ課題解決していきたい。是非、実現していくように全力を尽くしていきたい。

(事務局)

- ・本日で、東村山駅周辺まちづくり協議会は一旦終了するが、今後、東村山駅周辺まちづくりに関して、動きや進展があれば、声をかけさせていただきたい。まちづくりニュースについては、今後も発行していく予定であるため、自治会配布の御協力をお願いしたい。
- ・本日発表された意見は、協議会だけでなく、様々な市民の方の意見を踏まえたものと確信している。そして、それを市として受け止めた。今後は、このまとめを踏まえて、一日も早い実現に向けて努力していきたい。
- ・長期に渡る協議会へ参加いただき、ありがとうございました。

3. 閉会